

5. 秋田県 (Akita Pref.)

作成者:佐々木明夫1) : 協力者:新谷明弘・成田正弘

作成日付: 2002年12月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
EX	ウ	E	オオウラギンヒョウモン	—	—	森吉町, 秋田市, 田沢湖町, 仁賀保町, 象潟町, 皆瀬村, 雄勝町	1971年, 仁賀保高原の採集例以降, 信頼すべき 採集記録はない	里山の放置やスギなどの植林による草地の衰退・消滅	本種については, 次項の秋田の蝶以後の報文 “新谷明弘, 2000. 秋田自然史研究 40:30-37” に, 隣県の情報を含めた詳細な記述がある
EX	ウ	E	チャマダラセセリ	—	—	鹿角市, 大館市, 鷹巣町, 森 吉町	かつて県北部に少数の小規模な産地があった が, 1971年以降は再三の調査にもかかわらず生 息が確認されていない	里山の放置やスギなどの植林による草地の衰退・消滅	秋田県のチョウについての情報は“成田正弘, 2000. 『秋田の蝶』, 秋田自然史研究会”に集大成 され, それ以前の文献等についても全て同文 献から検索できる. その後“秋田県の絶滅のおそ れのある野生生物 2002”が秋田県から発行され ている
EN	ソ, ツ	V	キマダラモドキ	—	田沢湖町, 矢島町?	—	最近では1996年に棲息が確認されている. しかし 棲息範囲はごく狭く, 個体数も少ない	生息地の開発や放置による草原～疎林の衰退	矢島町の事例は, 小学生の採集品によるもの で, ラベルがついていないなど, やや確実性に欠 ける部分がある
EN	ソ	V	フタスジチョウ	—	鹿角市, 田沢湖町	—	鹿角市では崖地のアイズシモツケや周辺の植栽 されたユキヤナギに少数発生していたが, 1990 年代以降は殆ど確認されていない	不明. 当初から個体密度が希薄だった. 食樹アイ ズシモツケの群落は比較的良好に保たれている	田沢湖の記録「島田, 1976. 月刊むし64:31」は1 例のみで, その後再確認されていない
EN	ソ, テ	V	クロシジミ	—	田沢湖町, 仁賀保町, 象潟 町	秋田市, 河辺町, 神岡町, 皆 瀬村, 雄勝町	1950-60年代には秋田市や河辺町などで局地的 ながら個体数は少なくなかった. 1990年代以降は 象潟町など3町からのみ生息が確認され, 生息個 体数もごく少ない	かつてこの種が生息していたススキ～シバ草原 の介在する雑木林の滅失	—
VU	タ, テ, ニ	R	ギフチョウ	—	象潟町, 矢島町	象潟町のコシノカンアオイ生 育地の個体群は絶滅	安定した発生地であった鳥海山西麓(象潟町)の 低標高産地では1991年の記録が最後. 西麓のよ り標高の高い産地では少ないながら現在も発生 が確認されている. 鳥海山北麓(矢島町)では, 1993年をピークに発生数の減少が著しく, 場所 によっては全く確認できなくなっている	鳥海山西麓の低標高の産地は, 植林されたスギ の生長にともない生息環境が悪化し消滅した. 鳥 海山北麓(矢島町)では1993年の台風19号による ブナの倒木地にチシマザサやススキが侵入し, 急速に発生環境が悪化した	東北地方における本種の主たる食草はコシノカン アオイである. 鳥海山北麓のブナ林に生息するウ スバサイシン, オクエゾサイシンに依存する個体 群は, 安定した生息域の形成が難しいと考えら れ, もともと生息密度が希薄であった. 本種が安 定的に生息数を維持していくためには, ウスバサ イシン, オクエゾサイシンの生育に適した環境を 維持する必要があるほか, 隣接するコシノカンア オイ依存の個体群の存在も必要なのかもしれない
NT	タ, ト	—	ヒメシロチョウ	峰浜村	鹿角市, 比内町, 大館市, 鷹 巣町, 能代市, 角館町, 中仙 町, 大曲市, 横手市, 雄物川 町, 増田町, 皆瀬村	—	峰浜村を除く産地では個体数の変動が著しい が, 全般的には1990年代以降減少傾向にある. 峰浜村の産地は山腹部にあって, 小規模ながら 毎年安定して発生している	発生地は水路周辺の草地や堤防, 河川敷など水 田に近接していることが多く, 農薬散布や草刈等 の作業が発生数に影響している可能性がある	—
NT	チ, ト	R	ヒョウモンチョウ	鹿角市	鷹巣町, 森吉町	—	鹿角市での個体数は, 希薄ではあるが維持され ている. その後大野台の産地が発見されたが, 比較的安定した森吉町の発生地がゴルフ場建設 により2001年以降壊滅状態になっている	ゴルフ場建設など, 発生地の環境破壊	—
NT	タ	—	ホシミスジ(北上高地亜種)	—	鹿角市, 大館市	—	1980年代に入ってから生息が確認された. 食裁さ れたユキヤナギで発生していたが減少衰退して いる	不明. 当初から個体密度が希薄だった. 食草アイ ズシモツケの群落は比較的良好に保たれている	—
NT	ト, ヌ	—	キタアカシジミ	峰浜村	田沢湖町	—	田沢湖町の産地のカシワは, いわゆる里山の放 置によって衰退傾向にあるうえ, 1990年代には別 荘地などの開発で危機的な状況にある	カシワ林の衰退	—
NT	タ, テ	—	ヘリグロチャバネセセリ	—	小坂町, 鹿角市, 大館市	—	1990年代に入って, いずれの産地でも草地が荒 廃衰退し, 個体数の減少がみられる	里山の放置による棲息環境の劣化. 草原の衰退 消滅	—

前回のリストで取り上げられているが, その後の知見により削除した種

—	—	R	テングチョウ	鹿角市, 大館市, 岩城町, 本 荘市, 協和町, 田沢湖町, 横 手市, 山内村, 平鹿町, 稲川 町, 東成瀬村, 雄勝町	—	—	—	—	かつては鹿角市や県南山間部にわずかな産地 が知られるのみの希少種と考えられていたが, そ の後, 県南地方を中心に新しい産地が次々に発 見され, 個体数も少なくない
—	—	E	ギンボシヒョウモン	湯沢市?	—	—	—	—	過去に湯沢市から2例の採集情報があるが, 標 本が実在せず, 採集時の状況にも不確かな部分 がある. したがってこの調査票からは一旦除外 し, 秋田県のファウナに加えるのは確実な記録が 出てからにしたい
—	—	R	ヒメシジミ	鹿角市, 田沢湖町, 由利町, 矢島町, 山内村, 平鹿町, 湯 沢市, 皆瀬村, 東成瀬村	—	—	—	—	県南部の山間地に比較的広く分布し, 安定した 生息地が確認されている

1) 〒010-1424 秋田県秋田市御野場5-11-5